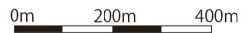


## ■昭和前半の入町周辺の地理的特徴 ■入町の水防活動 ■1941(昭和16)年水害 被害状況・復旧作業

2023(令和5)年9月29日の入町自治会館での聞き取り調査に基づき作成  
※日野川左岸と光善寺川右岸は、入町とは水害の様相が異なるため、描写しない



**入町周辺の地理的特徴**

- 入町周辺の地域は天井川である日野川、光善寺川に囲まれており、堤内が浸水すると自然排水が困難な地形である。
- そのため、この地域では標高の高い山と御幸山の山裾に集落が形成され、低地は田んぼとして利用されている。
- 安養寺の田んぼより入町の田んぼの方が、若干標高が低い。

**2つの排水路**

- この地域の排水路は主に2つで、安養寺を通り、大貝地区南東部で日野川に排水する排水路aと、入町を通り、大貝地区北端の大貝橋で日野川に排水する穴田川がある。

**大貝地区**

日野川堤防は、左岸が右岸より1mほど低く、日野川増水時には左岸側である大貝地区側に溢れやすい。このため、大貝地区は古くから遊水地として機能していたといえる。

**入町の水害メカニズム**

- ① 日野川増水時に起こるバックウォーター**  
日野川増水時には堤内の水を日野川へ排水することができないため、下流側から徐々に浸水していき、氾濫水が入町にも到達する。
- ② 日野川決壊による氾濫水の流入**  
安養寺で日野川が決壊または越水した際には、比較的に標高の低い入町の方に氾濫水が流入する。
- ③ 光善寺川堤防の決壊**  
入町溜池付近の光善寺川は蛇行しており、堤防が決壊する恐れがある。また、光善寺川は土砂供給が多いため、決壊時には大量の土砂が堤内に流れ込む。

**鉄道建設に伴う入町の水害メカニズムの変化**

- 1882(明治15)年に開業した国鉄(現JR)東海道線は盛り土構造であったため、排水路である穴田川は盛り土の下をくぐる形になり、そこに樋門が設置された。
- 盛り土建設によって、入町は大貝地区方面からの氾濫水の流入を防ぎやすくなった反面、安養寺側から流入した氾濫水を下流に排水することが難しくなったため、入町の浸水リスクは高まった。

**入町地区の水防活動**

**穴田川：①への対策**

- 平常時はほとんど水が流れていないため、国鉄盛土に設置された樋門は開いているが、大貝地区が浸水した際にはさぶたを差し込んで樋門を閉じ、逆水を堰き止める。

**日野川左岸堤防：①②への対策**

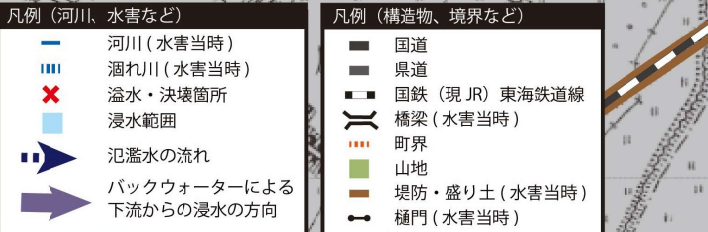
- 入町は日野川の氾濫被害を受ける可能性があるものの、日野川には面していないため、日野川左岸堤防での水防活動に入町の住民が従事することはなかった。
- 日野川に面した安養寺は日野川堤防で水防活動を行っていたが、安養寺の集落は入町よりも標高が高く、万一氾濫しても住宅は被害を受けにくいため、日野川の増水に対する危機感が入町よりも少なかった可能性がある。

**燈心堤(とうしむづつみ)：③への対策**

- 入町溜池南西に位置する光善寺川の燈心堤は、光善寺川の屈曲点にあり、増水時には急流が堤防に当たるため危険である。
- 入町では、光善寺川の堤防が決壊しないよう、町村から支給された杭と縄と土嚢、そして付近の藪から調達した竹で、竹流し工法を行っていた。

**その他**

- 1941(昭和16)年、1959(昭和34)年の水害当時の入町には水防倉庫や自治会館はなかったため、水害発生時には自宅で待機する人が多かった。
- 水防活動に必要な道具は、Yさんの自宅の隣にあった作業所とよばれる場所に置かれていた。



**昭和16年水害 被害概要・復旧作業(土砂捨て場)**

- 光善寺川の右岸堤防が、国鉄東海道線の橋梁の上流側で決壊した。
- 氾濫水により国鉄盛土が100mほど削られた。
- 決壊箇所から流入した土砂と、削られた盛土の土砂が堤内の農地に20トンほど流入し、堆積した。
- 光善寺川が小河川であったため、入町の浸水被害はほとんどなかった。



**土砂捨て場の成り立ち**

- 堆積土砂は花崗岩質であり、建設材料には向きで処理に困った。田んぼから堆積土砂を取り除くため、トロッコを設置し、運搬した。
- ジュンサイ淵を土砂捨て場にしようとしたが、トロッコではそこまで運べなかったため、決壊箇所付近と国鉄盛土沿いを土砂捨て場にした。
- 官民境界を少しずらして国鉄の土地を広げ、国鉄所有地に編入しなかった土砂捨て場の土地は村が購入した
- 現在も決壊箇所付近の線路盛り土や堤防の形状が他所と異なっているのは、当時の復旧の名残である。

**光善寺川**

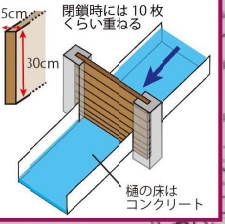
典型的な天井川を形成しており、平常時は洩れ川となっている。

**国鉄線路脇の池**

国鉄建設時に資材確保のために周辺を掘ったため、その跡地に池がたくさんできた。

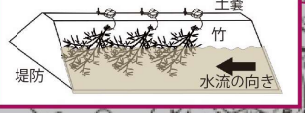
**さぶた(鎮蓋、遮板など)**

穴田川の樋門を閉める際には、水の流れに対して垂直に数枚の長い板を差し込み、水を堰き止める。



**灯心堤(とうしむづつみ)の竹流し工法**

藁のついた竹を堤防上から増水した川の口に流すことで、堤防を保護し、水流で堤防の土が削られるのを防ぐ。



**日野川**

天井川である。河道の幅員が狭く、両岸低地に対する川床底の掘り込みは3mあり深いため、増水時の水位上昇が著しい。『福王町史』上巻、pp.56-61、1987年 現在(2023(令和5)年)は下流側から改修が進められている。

**安養寺地区 唯一の排水路**

**宮の森(お漆)**

かつて、ここに日吉神社があり、周囲は漆で囲まれていた。1572-1592年(天正年間)にたびたび洪水にあったため、1587(慶長9)年に日吉神社と専念寺(1575(天正3)年に安曇中興)及び墓地が、現在の御幸山に移された。